

心電図のキホンと判読のコツ（2-3 級レベルを中心に）

高知医療センター循環器内科 川田哲史

心電図は 1903 年にオランダのアイントーベンにより開発された心臓の電氣的な活動の様子をグラフ状に記録したもので、120 年以上が経過します。心電図検査は非侵襲的であり、再現性が高く健康診断や日常診療、救急医療などに広く用いられています。心電図検定は 1-4 級まで分類されていますが、この度は 2 級（中等度から高度：一般循環器医、循環器勤務ベテランメディカルプロフェッショナル）、3 級（基礎から中等度：一般臨床医、循環器勤務メディカルプロフェッショナル）を対象とした内容を予定しています。実際の問題形式も交えながら説明いたしますので、受講される方々も心電図診断と一緒に考えていきましょう。